

北米ワシントンD.C.近郊の小規模な自然史系博物館

ワシントンD.C.近郊には、小規模ながらユニークな自然史系博物館がある。ここでは、メリーランド州のカルバート海洋博物館とノースカロライナ州のオーロラ化石博物館、および近郊の化石産地を紹介する。

＜岩手県立博物館 大石雅之＞

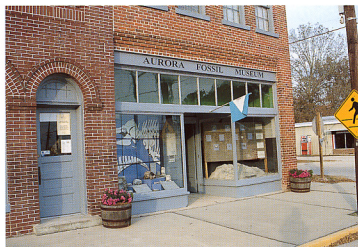


1. カルバート海洋博物館の外観(メリーランド州ソロモンズ)。この博物館はチェサピーク湾に面し、この地域の「古生物」「入江の生物」「海運史」の3つがその展示テーマとなっている。

2. “発掘のジオラマ”(カルバート海洋博物館)。新第三系チェサピーク層群は、チェサピーク湾岸に連続的に露出し、貝類、ウニ、サメや硬骨魚類、鳥類、爬虫類、哺乳類などのきわめて豊富な化石が産することで知られている。カルバート海洋博物館の古生物の展示室には、海生哺乳類化石を掘り出してプラスチックジャケットに包み込んだ様子を示す、いわば“発掘のジオラマ”が展示されている(Courtesy of the Calvert Marine Museum)。



3. サイエンティスト・クリフ(メリーランド州カルバート郡)。チェサピーク層群の露出状況の一例。このようなほぼ連続的な露頭が50kmほど続く。ここに見えているのは下部～中部中新統のカルバート層。



4. オーロラ化石博物館の外観（ノースカロライナ州オーロラ）。街角のごく普通の建物を利用した小さな博物館だが、展示標本のほとんどすべてが近郊の化石産地、リー・クリーク・メインで産出した化石である。

5. リー・クリーク・メイン産鯨類化石（オーロラ化石博物館）。リー・クリーク・メインの中新統ブングリバー層と鮮新統ヨークタウン層からは、膨大な量の海生哺乳類化石が産出する。博物館入口の展示ケースには歯鯨類スクアロドンやヒゲ鯨類の耳骨化石などが展示されている（Courtesy of the Aurora Fossil Museum）。



6. リー・クリーク・メイン（ノースカロライナ州オーロラ近郊）。広大な礫床の採掘に伴って、始新世から更新世にわたる地層から極めて膨大な量の海生動物の化石が掘り出され、散乱している。鉱山が用意したバス（遠方に見える）で構内を15分ほど走ったところにこの日の化石採集場所があった。